

認可

[平成22年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

新潟リハビリテーション大学院大学 医療学部  
(新潟リハビリテーション大学 医療学部)

注2

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 北都健勝学園  
平成22年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 医療学部

職名・氏名 学部長・教授 タカハシ 高橋 クニオ 邦丕

電話番号 0254-56-8292

(夜間) 0254-56-8292

F A X 0254-56-8291

e-mail k.takahashi@nur.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載いただき、その下欄に( )書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科(通信教育課程)」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

# 目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	
	理学療法学専攻	4
	言語聴覚学専攻	8
3	施設・設備の整備状況，経費	12
4	既設大学の状況	13
5	教員組織の状況	14
6	留意事項に対する履行状況等	20
7	その他全般的事項	23

## 添付資料

①2011年 大学案内パンフレット

②平成22年度 学生便覧、履修手引き

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 北都健勝学園

## (2) 大学名

新潟リハビリテーション大学

## (3) 大学の位置

〒958-0053  
新潟県村上市上の山2番16号

## (4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	マトバ ミチコ 的場 已知子 (平成19年4月)		
学長	オオサワ ゲンゴ 大澤 源吾 (平成19年4月)		
副学長	スギシタ モリヒロ 杉下 守弘 (平成19年10月)		
学部長 学科長	タカハシ クニオ 高橋 邦丕 (平成22年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)

平成22年度に報告する内容 → (22)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください。  
 ・ 様式は、平成19年度開設の4年制の学科の場合(平成22年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
医療学部	年	人	年次人	人	
リハビリテーション学科					
理学療法学専攻	4	40	0	160	
言語聴覚学専攻	4	40	0	160	
学士(リハビリテーション学)					

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員超過率	備考
A	入学定員	(-)人	(-)人	(-)人	(-)人	0.67倍	
		-	-	-	80		
	志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)		
		-	-	-	80		
	受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)		
		-	-	-	76		
	合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)		
		-	-	-	76		
B	入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)		
		-	-	-	54		
	入学定員超過率 B/A	(-)	(-)	(-)	(-)		
		-	-	-	0.67		

- (注) ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入し、平均入学定員超過率も同様の方法としてください。  
 ・ 「平成22年度」には、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。  
 ・ 「平成19~21年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
1年次		[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
		-	-	-	54	
2年次		/	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
		/	-	-	-	
3年次		/	/	[ - ]	[ - ]	
		/	/	-	-	
4年次		/	/	/	[ - ]	
		/	/	/	-	
計		[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
		-	-	-	54	

- (注) ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成19年度	計 [ - ] -	(累積)計 [ - ] -	-
	うち平成19年度入学者 -	うち平成19年度 -	
	(主な退学理由)		
平成20年度	計 [ - ] -	(累積)計 [ - ] -	-
	うち平成19年度入学者 -	うち平成19年度 -	
	うち平成20年度入学者 -	うち平成20年度 -	
	(主な退学理由)		
平成21年度	計 [ - ] -	(累積)計 [ - ] -	-
	うち平成19年度入学者 -	うち平成19年度 -	
	うち平成20年度入学者 -	うち平成20年度 -	
	うち平成21年度入学者 -	うち平成21年度 -	
(主な退学理由)			
平成22年度	計 [ 0 ] 0	(累積)計 [ 0 ] 0	[ 0 % ] 0 %
	うち平成19年度入学者 -	平成19年度 -	
	うち平成20年度入学者 -	平成20年度 -	
	うち平成21年度入学者 -	平成21年度 -	
	うち平成22年度入学者 0人	平成22年度 0人	
(主な退学理由)			

(注)・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
  - ・就学意欲の低下   ・学力不足   ・他の教育機関への入学・転学   ・海外留学
  - ・就職   ・学生個人の心身に関する事情   ・家庭の事情   ・除籍   ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

## 2 授業科目の概要

<医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養分野	導入教育	フレッシュマンセミナーⅠ（基礎）	1前	1			1	1		4		○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から通年に変更（22） ○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
		フレッシュマンセミナーⅡ（応用）	1通 1後	1			14	3 4	4	4	4	
	人文科学	臨床倫理学	未開講 1・2後		2		1					履修希望者がいなかったため（22）
		地域文化論	1・2前		2							
		心理学概論	1・2前		2			1				
		行動科学概論	1・2前		2					1		
	社会科学	社会学	1・2前		2							
		経営学	1・2後		2							
		法学	1・2後		2							
		対人関係論	1・2前		2					1		
	自然科学	統計学	1前	2	2							文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修科目に変更（22）
		生物科学	1・2前		2				1			
		地域環境学	1・2前 1・2後		2							担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更（22）
		人間支援科学	1・2後		2							
		物理学	1・2前		2							
	体育関係学	レクリエーション	1・2前		1							
		保健体育	1前	1	1							文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修科目に変更（22）
	情報	情報処理技法	1前	2								
		情報処理演習	1・2後		2					1		
	外国語	英語Ⅰ（初級）	1前		2		1					
		英語Ⅱ（中級）	1・2前 1・2通		2							担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更（22）
		英語Ⅲ（上級）	未開講 1・2後		2							履修希望者がいなかったため（22）
		オーラルコミュニケーションⅠ（初級）	1前		2		1					
		オーラルコミュニケーションⅡ（中級）	1・2後 1・2通		2							担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更（22）
		オーラルコミュニケーションⅢ（上級）	未開講 1・2後		2							履修希望者がいなかったため（22）
		医療英文抄読法	3前	2			1					
	小計（26科目）											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎分野	基礎医学	解剖学Ⅰ（総論）	1通	2			1					
		解剖学Ⅱ（各論）	2前	1			1					
		解剖学実習	2後	1			1			2	2	
		生理学	1通	2			1					
		神経生理学	2前	2			1					
		生理学実習	2後	1			1			2	2	
		病理学概論	2後	1								
		医学概論	1後	1			1					
	臨床医学	臨床心理学	1後	2			1		1			
		生涯発達心理学	1後	2				1				
		内科学	2前	1			1					
		臨床神経学	2前	1			1					
		小児科学	2後	1					1			
		精神医学	2前	1				1				
		リハビリテーション医学	2前	1			1					
		医療安全管理学	1前	2								
	社会福祉	感染症学	2前	1					1			
		リハビリテーション概論	1後	1			1					
	リハビリ関連科目	保健医療福祉制度論	2前	1								
		高次脳機能障害学概論	2後		1		1					
		摂食・嚥下障害学概論	2後		1		1					
		チーム医療学	1・2後		1							
		認知症	2・3前		1		1					
		薬理学	2・3前		1							
		生化学	2・3前		1							
		栄養学	1・2前		1			1				
	心理関連科目	社会心理学	1・2後		2				1			
		食の心理学	2・3前		1			1				
		健康心理学	1・2後		2			1				
		児童心理学	1・2後		2				1			
		心理学実験演習	1・2後		3			1	1			
		心理測定法	2・3前		4				1			
		認知心理学	1・2後		2				1			
		学習心理学	1・2後		2			1				
		音響・聴覚心理学	2・3前		2				1			
		神経心理学	2・3前		2		1					
小計（36科目）												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門分野	基礎理学療法学	基礎運動学概論	1後	2			1						佐藤舜也(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可	
		基礎運動学各論	2前	1			1						佐藤舜也(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可	
		運動学実習	2前	1			1					1		
		整形外科学	2前	1			1							
		理学療法概論	1前	1			1							灰田信英(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可
		基礎理学療法学	2前	1			1							浅海岩生(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可
		基礎運動療法学	2前	1			1							灰田信英(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可
		リハビリテーション工学	2後	1										
		動作解析学実習	3前	1			1						1	
	臨床運動学	3前	1			1							佐藤舜也(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可	
	理学療法評価学	理学療法評価学	1後	2			2							高橋邦丞(教授) 灰田信英(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可
		理学療法評価学実習	2後	2							1	1		
		理学療法評価学演習	3前	1							1			
	理学療法治療学	物理療法学	2後	2				+						平成22年7月の教員審査に提出予定
		物理療法学実習	3通	1			1					1		
		日常生活活動学	2後	2										
		日常生活活動学実習	3通	1							1			
		運動器疾患理学療法学	3前	2				+						平成22年7月の教員審査に提出予定
		運動器疾患理学療法学実習	3前	1							1	1		
		中枢神経疾患理学療法学	3前	2				+						平成22年7月の教員審査に提出予定
		中枢神経疾患理学療法学実習	3通	1			1					1		高橋洋(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可
		神経・筋疾患理学療法学	3前	1							1			
		発達障害理学療法学	3後	2						1				和田有子(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定可
		呼吸器疾患理学療法学	3後	1			1							
		循環器疾患理学療法学	3後	1										
		代謝系疾患理学療法学	3前	1			1							
		スポーツ障害理学療法学	3後		1									
老年期理学療法学		3後		1		1								
健康増進理学療法学	3後		1						1					
義肢・装具学	3後	2			1									
生活環境学	生活環境論	2後	2											
	地域リハビリテーション論	3後	2			1								



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	臨床実習	臨床見学実習	1後	1			5	0 ↓		2	2	齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
		基礎実習	2後	2			5	0 ↓		2	2	齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
		臨床評価実習	3後	4			5	0 ↓		2	2	齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
		臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）	4前	8			5	0 ↓		2	2	齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
		臨床総合実習Ⅱ（総括）	4前	8			5	0 ↓		2	2	齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
	特論	理学療法技術学Ⅰ（中枢）	4後		1		1					高橋邦正（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定可
		理学療法技術学Ⅱ（運動器）	4後		1		1					佐藤舜也（教授） 平成22年2月 教員審査済 判定可
		理学療法技術学Ⅲ（痛み）	4後		1							
		卒業研究	4通		2		16	2 ↓	3	4	2	齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
	小計（41科目）											

- (注) ・認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。  
 ・設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
 ・授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）  
 ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

## (2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
57	46	0	103	59	44	0	103	
				[ 2 ]	[ Δ2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[ ]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：Δ1）

<医療学部 臨床リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養分野	導入教育	フレッシュマンセミナーⅠ（基礎）	1前	1			1	1		4		○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から通年に変更（22） ○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
		フレッシュマンセミナーⅡ（応用）	1通 1後	1			14	3 4	4	4	4	
	人文科学	臨床倫理学	未開講 1→2後		2		1					履修希望者がいなかったため（22）
		地域文化論	1・2前		2							
		心理学概論	1・2前		2			1				
		行動科学概論	1・2前		2				1			
	社会科学	社会学	1・2前		2							
		経営学	1・2後		2							
		法学	1・2後		2							
		対人関係論	1・2前		2				1			
	自然科学	統計学	1前	2	2							文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修科目に変更（22）
		生物科学	1・2前		2				1			
		地域環境学	1・2前 1→2後		2							担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更（22）
		人間支援科学	1・2後		2							
		物理学	1・2前		2							
	体育保健学	レクリエーション	1・2前		1							
		保健体育	1前	1	4							文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修
	情報	情報処理技法	1前	2								
		情報処理演習	1・2後		2				1			
	外国語	英語Ⅰ（初級）	1前		2		1					
		英語Ⅱ（中級）	1・2前 1→2通		2							担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更（22）
		英語Ⅲ（上級）	未開講 1→2後		2							履修希望者がいなかったため（22）
		オールラブルコミュニケーションⅠ（初級）	1前		2		1					
		オールラブルコミュニケーションⅡ（中級）	1・2後 1→2通		2							担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更（22）
		オールラブルコミュニケーションⅢ（上級）	未開講 1→2後		2							履修希望者がいなかったため（22）
		医療英文抄読法	3前	2			1					
	小計（26科目）											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	単位	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎分野	基礎医学	解剖学Ⅰ（総論）	1通	2			1						
		解剖学Ⅱ（各論）	2前	1			1						
		解剖学実習	2後	1			1			2	2		
		生理学	1通	2			1						
		神経生理学	2前	2			1						
		生理学実習	2後	1			1			2	2		
		病理学概論	2後	1									
		医学概論	1後	1			1						
	臨床医学	臨床心理学	1後	2			1		1				
		生涯発達心理学	1後	2				1					
		内科学	2前	1			1						
		臨床神経学	2前	1			1						
		小児科学	2後	1					1				
		精神医学	2前	1				1					
		リハビリテーション医学	2前	1			1						
		医療安全管理学	1前	2									
	社会福祉	リハビリテーション概論	1後	1			1						
		保健医療福祉制度論	2前	1									
	リハビリ関連科目	高次脳機能障害学概論	2後		1		1						
		摂食・嚥下障害学概論	2後		1		1						
		チーム医療学	1・2後		1								
		認知症	2・3前		1		1						
		薬理学	2・3前		1								
		生化学	2・3前		1								
		栄養学	1・2前		1			1					
	心理関連科目	社会心理学	1・2後		2				1				
		食の心理学	2・3前		1			1					
		健康心理学	1・2後		2			1					
		児童心理学	1・2後		2				1				
		心理学実験演習	1・2後		3			1	1				
		心理測定法	2・3前		4				1				
		認知心理学	1・2後		2				1				
		学習心理学	1・2後		2			1					
		音響・聴覚心理学	2・3前		2				1				
		神経心理学	2・3前		2		1						
		小計（36科目）											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	言語聴覚障害学総論	1前	2					1				
	言語聴覚障害学診断学	2後	2			1						
	言語学	3後	2									
	音声学	2通	2									
	文部・厚生労働省指定障害学	言語医学	1後	1			1					
		失語症学	2通	1			1					
		高次脳機能障害学各論	3前	1			1					
		高次脳機能障害学実習	3通	1			1			1		
	言語発達障害学	言語発達学	2前	1								
		言語発達障害学概論	2後	2								
		言語発達障害学各論Ⅰ (MR・自閉症)	3前	2			1					
		言語発達障害学各論Ⅱ (OP・その他)	3前	1			1					
		言語発達障害学実習	3通	1			1			1		
	発声発語・嚥下障害学	音声医学	1後	1			1					
		形成外科学	2前	1								
		臨床歯科医学	2前	1			1					
		音声障害学	3前	1			1					
		運動障害性構音障害学	3前	2								
		器質・機能的構音障害学	3後	1								
		吃音	3後	1								
		呼吸リハビリテーション学	3前	1			1					
		摂食・嚥下障害学各論	3前	1			1					
		摂食・嚥下障害学実習	3後	1			1			1		
	聴覚障害学	聴覚医学	1後	1			1					
		耳鼻咽喉科学	2前	1			1					
		小児聴覚障害学	2前	1								
		成人聴覚障害学	2後	1								
		補聴器・人工内耳	3後	2								
		聴力検査法	3前	2			1					
	臨床実習	聴力検査実習	3後	1			1			1		
		臨床見学実習	1後	1			3	1	1	2	2	
		基礎実習	2後	1			3	1	1	2	2	
		臨床評価実習	3後	4			3	1	1	2	2	
	特論	臨床総合実習	4前	8			3	1	1	2	2	
		言語聴覚学演習Ⅰ (基礎)	4通		2				1		2	2
		言語聴覚学演習Ⅱ (専門)	4通		2		1				2	2
		言語聴覚学演習Ⅲ (臨床)	4通		2					1	2	
		卒業研究	4通		2		16	2 3	4	2		齋藤信夫 (准教授) が辞退したため、教員の配置変更。後任未定 (22)
	小計 (38科目)											

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号 (その2の1) に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時の授業科目全て (兼任、兼任教員が担当する科目を含む。) を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)  
 ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等 (平成19年度認可以前) についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
57	43	0	100	59	41	0	100	
				[ 2 ]	[ Δ2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する (資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。) とともに、[ ] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。  
 新潟リハビリテーション大学

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

〈理学療法学専攻〉

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

〈言語聴覚学専攻〉

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 までの距離 5km・車利用約7分		
	校 舎 敷 地	8,764.81㎡	0㎡	0㎡	8,764.81㎡			
	運 動 場 用 地	5,000.00㎡	0㎡	0㎡	5,000.00㎡			
	小 計	13,764.81㎡	0㎡	0㎡	13,764.81㎡			
	そ の 他	2,261.47㎡	0㎡	0㎡	2,261.47㎡			
	合 計	16,026.28㎡	0㎡	0㎡	16,026.28㎡			
新潟リハビリテーション		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共有校舎の玄関棟88.82㎡が 71.18㎡に変更となった為に、全 体の校舎面積が増減となった。 これは建築計画と登記上面積の 誤差によるもの(22)		
		7,028.75㎡ <del>7,046.39㎡</del> (2,402.77㎡)	0㎡	0㎡ (865.10㎡)	7,028.75㎡ <del>7,046.39㎡</del> 7,028.75㎡ (7,046.39㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	1室 (補助職員 1人)		
	13室	7室	12室	1室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 1人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	医療学部			26 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト)を含む。  学生の学修や知的好奇心の増進に資する為、学術雑誌の和書及び事典等を増加した(22)
	医療学部	25,000 [3,000] (22,670 [1,217]) <del>(21,000 [1,207])</del>	50 [17] (50 [17])	60 [56] (40 [36])	650 (596)	2,900 (2,840)	100 (61)	
	計	25,000 [3,000] (22,670 [1,217]) <del>(21,000 [1,207])</del>	50 [17] (50 [17])	60 [56] (40 [36])	650 (596)	2,900 (2,840)	100 (61)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	470.17㎡		90		80,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	338.27㎡ <del>341.00㎡</del>		—					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	5,355千円	8,000千円	8,000千円
	共同研究費等	1,500千円	3,000千円	設備購入費	40,323千円 <del>41,851千円</del>	41,581千円 <del>39,898千円</del>	2,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,750千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—	—	
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入等					

- (注) ・ 設置認可時の計画を認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・ 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
  - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況  
【該当なし】

大学の名称		〇〇大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年	設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
大学の名称		〇〇短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年	設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授(学長)	大澤 源吾(78)	平成22年4月	臨床倫理学 医学概論 内科学 呼吸リハビリテーション学 卒業研究						
専	教授(専攻長)	佐藤 舜也(75)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 整形外科学 卒業研究	専	教授(専攻長)	佐藤 舜也(75)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 基礎運動学概論 基礎運動学各論 整形外科学 臨床運動学 理学療法技術学Ⅱ(運動器) 卒業研究	平成22年1月教員審査済 基礎運動学概論 基礎運動学各論 臨床運動学 理学療法技術学Ⅱ(運動器) 判定可
専	教授	真貝 富夫(69)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 生理学 神経生理学 生理学実習 卒業研究						
専	教授	熊木 克治(69)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 解剖学Ⅰ(総論) 解剖学Ⅱ(各論) 解剖学実習 卒業研究						
専	教授	遠藤 文雄(68)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 老年病理学療法学 薬理・薬理学 地域リハビリテーション論 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究						
専	教授	高橋 洋(62)	平成24年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 基礎運動療法学 呼吸器疾患理学療法 循環器疾患理学療法 代謝系疾患理学療法 理学療法技術学Ⅱ(運動器) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	教授	高橋 洋(63)	平成24年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 中枢神経疾患理学療法 法学実習 呼吸器疾患理学療法 代謝系疾患理学療法 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 中枢神経疾患理学療法実習 判定可
専	教授	灰田 信英(60)	平成23年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 基礎運動学各論 運動学実習 動作解析学実習 理学療法評価学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	教授	灰田 信英(61)	平成23年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 運動学実習 理学療法概論 基礎運動療法学 動作解析学実習 理学療法評価学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 理学療法概論 基礎運動療法学 理学療法評価学 判定可  就任年度変更(灰田信英) 平成21年10月の設置認可時は、平成23年4月に就任する予定であった。その後、本人より平成22年4月に就任をしたいとの申し出があったため、平成22年1月の教員審査では、平成22年4月に就任する承諾書を提出し、教員審査を受けた(審査科目「理学療法概論」「理学療法評価学」「基礎運動療法学」判定可)。しかし、現職の諸事情により、退職が困難となり、設置認可時の計画通り平成23年4月に就任予定となった。 平成22年度開講科目の「理学療法概論」「理学療法評価学」は今年度に限り兼任にて担当する。 (22)
専	教授	浅海 岩生(56)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 臨床運動学 物理療法学 物理療法実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	教授	浅海 岩生(56)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 基礎理学療法学 物理療法学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 基礎理学療法学 判定可



認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	石塚 和重 (55)	平成24年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 発達障害心理学療法 理学療法技術学Ⅰ(中級) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	教授	石塚 和重 (55)	平成24年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	
専	准教授	齋藤 信夫 (50)	平成23年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 理学療法概論 基礎理学療法 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究			後任未定			就任辞退(齋藤信夫) 平成22年4月20日 一身上の都合による(母親の介護のため)(22)
専	准教授	的場 已知子 (46)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 精神医学 卒業研究						
専	講師	平田 恒彦 (71)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 生物科学 感染症学 卒業研究						
専	助教	松林 義人 (32)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法評価学演習 基礎運動学概論 日常生活活動学 日常生活活動学実習 神経・筋疾患理学療法 生活環境論 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	助教	松林 義人 (32)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 理学療法評価学実習 理学療法評価学演習 日常生活活動学実習 日常生活活動学実習 神経・筋疾患理学療法 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	
専	助教	佐々木 理恵子 (28)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 運動器疾患理学療法 運動器疾患理学療法実習 健康増進理学療法 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	助教	佐々木 理恵子 (28)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 運動器疾患理学療法 運動器疾患理学療法実習 健康増進理学療法 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	
専	教授 (副学長)	杉下 守弘 (66)	平成22年4月	臨床心理学 <sup>※</sup> 神経心理学 卒業研究						
専	教授 (学部長) (学科学長)	高橋 邦丕 (62)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 臨床神経学 リハビリテーション概論 音声医学 聴覚医学 耳鼻咽喉科学 聴力検査法 聴覚検査実習 卒業研究	専	教授 (学部長) (学科学長)	高橋 邦丕 (62)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 理学療法技術学 <sup>※</sup> 理学療法技術学Ⅰ(中級) 臨床神経学 リハビリテーション概論 音声医学 聴覚医学 耳鼻咽喉科学 聴力検査法 聴覚検査実習 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 理学療法評価学 <sup>※</sup> 理学療法技術学Ⅰ(中級) 判定 可
専	教授	山村 千絵 (48)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 摂食・嚥下障害学概論 摂食・嚥下障害学各論 摂食・嚥下障害学実習 卒業研究						
専	教授	野田 忠 (68)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 臨床歯科医学 卒業研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	伊林 克彦 (62)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 高次脳機能障害学概論 認知症 言語聴覚学演習Ⅱ(専門) 英語医学 失語症学 高次脳機能障害学各論 高次脳機能障害学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究						
専	教授	岩田 まな (62)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 言語聴覚障害学診断学 言語発達障害学各論Ⅰ(NR・自閉症) 言語発達障害学各論Ⅱ(OP・その他) 言語発達障害学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究						
専	教授	倉智 雅子 (49)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 英語Ⅰ(初級) トピックコミュニケーションⅠ(初級) 医療英文抄読法 音声学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究						
専	准教授	宮岡 里美 (51)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 心理学概論 生涯発達心理学 栄養学 食の心理学 心理学実験演習 学習心理学 健康心理学 言語聴覚学演習Ⅰ(基礎) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究						
専	准教授	加藤 豊広 (46)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用)						
専	講師	和田 有子 (43)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 小児科学 卒業研究	専	講師	和田 有子 (43)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 小児科学 発達障害心理学療法学 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 発達障害心理学療法学 判定 可
専	講師	黒須 敦子 (41)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 言語聴覚障害学総論 言語聴覚学演習Ⅲ(臨床) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究						
専	講師	佐藤 拓 (30)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 行動科学概論 対人関係論 情報処理演習 臨床心理学Ⅲ 社会心理学 音響・聴覚心理学 児童心理学 心理学実験演習 心理測定法 認知心理学 卒業研究						
専	助教	櫻井 晶 (29)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 解剖学実習 生理学実習 言語聴覚学演習Ⅰ(基礎) 言語聴覚学演習Ⅱ(専門) 言語聴覚学演習Ⅲ(臨床) 高次脳機能障害学実習 言語発達障害学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	田村 裕 (27)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 解剖学実習 生理学実習 言語聴覚学演習Ⅰ(基礎) 言語聴覚学演習Ⅱ(専門) 言語聴覚学演習Ⅲ(臨床) 摂食・嚥下障害学実習 聴力検査実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習						
兼任	講師	大場 喜代司 (72)	平成22年4月	地域文化論						
兼任	講師	小柳 茂美 (49)	平成22年4月	社会学						
兼任	講師	山岸 宏政 (75)	平成22年4月	経営学						
兼任	講師	平井 孝 (80)	平成22年4月	法学						
兼任	講師	八木 稔 (57)	平成22年4月	統計学						
兼任	講師	栗生 明 (62)	平成22年4月	地域環境学						
兼任	講師	小林 敏志 (67)	平成22年4月	人間支援科学						
兼任	講師	小池 幸雄 (68)	平成22年4月	物理学						
兼任	講師	小野 敏子 (62)	平成22年4月	レクリエーション チーム医療学						
兼任	講師	岡野 崇彦 (69)	平成22年4月	保健体育						
兼任	講師	山田 修司 (38)	平成22年4月	情報処理技法						
兼任	講師	Gerald Desrocher (50)	平成22年4月	英語Ⅲ(上級)	兼任	講師	Gerald Desrocher (50)	平成22年4月	英語Ⅱ(中級) 英語Ⅲ(上級) オーストラリア英語Ⅱ (中級) オーストラリア英語Ⅲ (上級)	英語Ⅲ、オーラルコミュニケーションⅡ・Ⅲの科目を追加した(22)
兼任	講師	大野 智子 (48)	平成22年4月	英語Ⅲ(上級)						就任辞退(大野智子) 平成21年12月13日 本人都合の辞退により担当 教員の変更(22)
兼任	講師	Anja Hopf (43)	平成22年4月	オーストラリア英語Ⅱ(中級) オーストラリア英語Ⅲ(上級)						就任辞退(Anja Hopf) 平成21年12月10日 本人都合の辞退により担当 教員の変更(22)
兼任	講師	斎藤 奨 (74)	平成22年4月	病理学概論						
兼任	講師	瀬尾 憲司 (49)	平成22年4月	医療安全管理学						
兼任	講師	鈴木 昭 (63)	平成22年4月	保健医療福祉制度論						
兼任	講師	土橋 洋史 (55)	平成22年4月	薬理学						
兼任	講師	三ツ井 敏明 (51)	平成22年4月	生化学						
兼任	講師	高田 治実 (56)	平成22年4月	理学療法技術学Ⅲ(痛み)						
兼任	講師	鈴川 仁人 (33)	平成22年4月	スポーツ障害理学療法学						
兼任	講師	佐藤 成登志 (45)	平成22年4月	リハビリテーション工学						
兼任	講師	池田 英喜 (46)	平成22年4月	言語学						
兼任	講師	大平 芳則 (48)	平成22年4月	音声学 成人聴覚障害学 補聴器・人工内耳						
兼任	講師	入山 満恵子 (35)	平成22年4月	言語発達学 言語発達障害学概論						
兼任	講師	渡辺 好博 (81)	平成22年4月	形成外科学						
兼任	講師	前新 直志 (40)	平成22年4月	吃音						
兼任	講師	西尾 正輝 (52)	平成22年4月	運動障害性構音障害学 器質・機能性構音障害学						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	星名 伸昭 (69)	平成22年4月	小児聴覚障害学						
					兼任	講師	灰田 信英 (61)	平成22年4月	理学療法概論 理学療法評価学	就任年度の変更のため兼任 教員として担当(22)
					兼任	講師	椿 淳裕 (35)	平成24年4月	病棟臨床看護学	担当教員の追加(22)
					兼任	講師	高橋 明美 (50)	平成23年4月	日常生活活動学	担当教員の追加(22)
					兼任	講師	田中 健 (37)	平成23年4月	日常生活活動学	担当教員の追加(22)

- (注) ・認可申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」には、平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、**「担当授業科目の変更」**又は**「昇格」**をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

## (2) 専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
16	4	4	4	28	4	16	3	4	4	27	4	
(12)	(3)	(4)	(4)	(23)	(2)	[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	

- (注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	准教授	齋藤 信夫	一身上の都合による（母親の介護が必要となったため）

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」：就任辞退者である齋藤信夫准教授が担当予定であった授業科目は、フレッシュマンセミナーⅡ、臨床見学実習、基礎実習、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）、臨床総合実習Ⅱ（総括）、卒業研究の7科目である。当初の就任予定が平成23年度4月予定であったため、平成22年度内の開講科目については、学生に不利益が生じることがないため、全く問題はない。平成23年度までには、後任の専任教員を確保できるよう鋭意努力している。

「学生への周知方法」：平成22年4月2日に実施した、新入生オリエンテーション時に授業科目の説明や担当教員の紹介を行った。その際、平成23年度以降の就任予定教員の氏名は紹介せず、年度更新毎に新たな教員を配置する旨を伝えたが、特に学生側からの質問等はなかった。また、齋藤信夫准教授のみが担当する科目は存在せず、担当予定の授業科目7科目は複数担当科目のため問題はない。今後、後任の専任教員が決まり次第、学生には掲示等にて周知させる予定である。

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時 (平成21年10月)</p>	<p>1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。特に医療学部としてのカリキュラムが実現されるよう、実習教育をはじめとした教育課程の充実を努めるとともに、その教育課程を不断に検証すること。</p>	<p>4年制大学にふさわしい教育研究活動及び教育課程の充実に努め、それを検証するため以下の努力を行っている。</p> <p>○全般的事項 設置の趣旨・目的等を活かすよう、次項「全般的事項」7-1-①に示すように、学生や社会に資料等で明示し、公開している。</p> <p>○教育研究活動 教育研究活動の水準を向上させるため、学内にてFD委員会を設置し、開学時より活動している。</p> <p>○教育課程の充実 教育課程の充実を図るために、教務委員会を設置し、カリキュラムが滞りなく遂行され、その効果を不断に検証できるよう努力している。</p>	
	<p>2. 「解剖学実習」において、言語聴覚学専攻に特異的な解剖領域（頭・頸部の解剖等）の充実を図ること。（言語聴覚学専攻）</p>	<p>○講義内容を変更し、頭・頸部の解剖を含めた内容とした。</p>	
	<p>3. 運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p>	<p>○今年度は、運動場を利用する講義は未実施。同じく課外活動においても現時点では運動場は利用していない。</p>	<p>○正課の保健体育においては現在のところ本学体育館及び、近隣の体育館（本学より約3km）を使用している。今後運動場を使用する場合は、必要に応じて送迎（学有車等）をする予定である。</p> <p>また課外活動においては、学内で検討を重ね、今後利用するであろう学生に対して不利益が生じないように配慮をしていく。</p>

<p>認可時 (平成21年10月)</p>	<p>4. 教員の補充を必要とされた17授業科目については、科目開設時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた15授業科目については、確実に専任教員を配置すること。</p> <p>(その他の意見)</p> <p>○論理的な思考を涵養する上で、「自助具等の制作発表」は不適切であることから削除することが望ましい。</p> <p>○シラバスにおける成績評価の記載を充実することが望ましい。</p>	<p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目については、平成21年12月「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」を提出した。その結果、平成22年2月文部科学省大学設置室より11科目については担当が「可」である旨の連絡を受けた。以下に詳細を示す。</p> <p>「基礎運動学概論」「基礎運動学各論」「臨床運動学」「理学療法技術学Ⅱ(運動器)」：教授 佐藤舜也  「基礎理学療法学」：教授 浅海岩生  「理学療法概論」「基礎運動療法学」「理学療法評価学」：教授 灰田信英  「理学療法評価学」「理学療法技術学Ⅰ(中枢)」：教授 高橋邦丕  「中枢神経疾患理学療法学実習」：教授 高橋洋  「発達障害理学療法学」：講師 和田有子</p> <p>○兼任教員の補充を必要とされた3授業科目のうち、2授業科目は兼任教員を補充した。以下に詳細を示す。</p> <p>「日常生活活動学」：高橋明美、田中健  「循環器疾患理学療法学」：椿淳裕</p> <p>○論理的思考を涵養するため、カリキュラム内の卒業研究において、「自助具等の制作発表」が含まれていたが、指摘を受け削除した。卒業研究では、少人数のゼミ形式での症例報告等を行い、科学的根拠に基づいた論理的思考、プレゼンテーション技能、コミュニケーション技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>○新入生オリエンテーションに配布した「学生便覧、履修の手引き」内のシラバスには、成績評価をGPA制度に準じて行う旨を記載した。GPA制度の成績評価については、新入生オリエンテーション等にて十分説明した。</p>	<p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目のうち、3授業科目(「物理療法学」「中枢神経疾患理学療法学」「運動器疾患理学療法学」)については平成22年6月に「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」にて提出する。3授業科目とも平成22年度に開講しないため、問題はない。</p> <p>○兼任教員の補充を必要とされた「生活環境論」は現在調整中である。平成22年度は開講しないため問題はない。</p>
---------------------------	--	--	---

設置計画履行状況 調査時 (21年1月)	【該当なし】		
設置計画履行状況 調査時 (22年2月)	【該当なし】		

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
  - ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。



## 7 その他全般的事項

＜医療学部 リハビリテーション学科＞

(1) 設置計画変更事項等

① 設置の趣旨及び必要性

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>(a)教育の理念、目的            本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「人の心の杖であれ」の精神を礎とした崇高な倫理感を備え、優れた医療人としての厳格さと慈愛を併せ持つ全人教育を目指し、わが国の医療分野に貢献することを目的とする。            中・長期的な教育目標は下記のとおりである。            (1) 崇高な倫理観と医療従事者としての使命感を常に有する人材の育成            (2) 地域社会に貢献できる人材の育成            (3) 文化教養に精通し、国際社会に貢献できる人材の育成</p>	<p>○平成22年4月の開設時より、教育の理念、目的を以下にて明示し、計画通り履行している。            ・2011年度大学案内（パンフレット）            ・ホームページ(<a href="http://nur.ac.jp">http://nur.ac.jp</a>)            ・各種進路説明会にて積極的に説明を行った。            ・5月以降に開催予定のオープンキャンパス等において、入学希望者には教育理念をよく説明する。</p>

新潟リハビリテーション大学

及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

② 教育課程の編成及び考え方の特色

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>(a)教育課程の編成の考え方 履修科目を大きく「教養分野」「専門基礎分野」「専門分野」に分け学習が進められるように体系的に編成している。必修科目及び選択科目を合わせて「教養分野」では26科目48単位配置し、「専門基礎分野」では36科目54単位配置されている。両分野では、専攻別とせずリハビリテーション学科として理学療法学専攻、言語聴覚学専攻が共に学び人間形成、専門職業人としての基礎を身につける。「専門分野」から、専攻別に分かれ、理学療法学専攻に41科目71単位を言語聴覚学専攻に38科目61単位を配置し、より高度で専門的な学習を行うように編成している。</p> <p>①教養分野（26単位以上） 教育目的達成のための基盤となる科目群であり、慈愛に満ちた人間性豊かな社会人と、幅広い知識に裏打ちされた医療専門職を目指す学生の骨格となる部分である。教養分野は「導入教育」「人文科学」「社会科学」「自然科学」「体育関係学」「情報」「外国語」7分野の細目に分かれ、本学の教育目標達成のための主要科目は必修科目とし、他の科目は個々の能力に幅広く対応できるよう選択科目として位置付ける。</p> <p>「導入科目」（2科目） フレッシュマンセミナーⅠ（基礎）、フレッシュマンセミナーⅡ（応用） 「人文科学」（4科目） 臨床倫理学、地域文化論、心理学概論、行動科学概論 「社会科学」（4科目） 社会学、経営学、法学、対人関係論 「自然科学」（5科目） 統計学、生物科学、地域環境学、人間支援科学、物理学 「体育関係学」（2科目） レクリエーション、保健体育 「情報」（2科目） 情報処理技法、情報処理演習 「外国語」（7科目） 英語Ⅰ（初級）、英語Ⅱ（中級）、英語Ⅲ（上級）、オーラルコミュニケーションⅠ（初級）、オーラルコミュニケーションⅡ（中級）、オーラルコミュニケーションⅢ（上級）、医療英文抄読法</p> <p>②専門基礎分野（理学療法学専攻33単位以上、言語聴覚学専攻43単位以上） 「高度な知識に裏打ちされた医療従事者及び研究者の育成」を目的に、専門分野での学習が円滑に行えるために、「基礎医学」「臨床医学」「社会福祉」「リハビリ関連科目」「心理関連科目」の5領域に分けて、医学分野及びリハビリテーション分野の基礎知識を身に付ける。特に基礎医学、臨床医学、社会福祉は基礎分野の中核をなす科目として重要のため必修とし、リハビリ関連科目及び心理関連科目は選択科目とする。</p> <p>「基礎医学」（8科目） 解剖学Ⅰ（総論）、解剖学Ⅱ（各論）、解剖学実習、生理学、神経生理学、生理学実習、病理学概論、医学概論 「臨床医学」（9科目） 臨床心理学、生涯発達心理学、内科学、臨床神経学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、医療安全管理学、感染症学 「社会福祉」（2科目） リハビリテーション概論、保健医療福祉制度論 「リハビリ関連科目」（7科目） 高次脳機能障害学概論、摂食・嚥下障害学概論、チーム医療学、認知症、薬理学、生化学、栄養学 「心理関連科目」（10科目） 社会心理学、食の心理学、健康心理学、児童心理学、心理学実験演習、心理測定法、認知心理学、学習心理学、音響・聴覚心理学、神経心理学</p>	<p>○設置認可時の予定通りに履行している。</p> <p>○統計学、保健体育の2科目については、平成21年11月の文部科学省医学教育課からの指導により、選択科目から必修科目に変更した。</p>

③専門分野（理学療法学専攻 67単位以上）

理学療法学専攻での専門分野は、主に患者の身体的・社会的な面に対して、理学療法の基本知識・技術・応用力を体系的に学ぶため、「基礎理学療法学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」「特論」の6分野で構成している。医療施設のみならず地域リハビリテーションの分野での実践力を重視し、保健医療福祉分野の各専門職者と連携・協働できるように、また、従来の治療医学のみならず予防医学に展開できるように、教育課程を編成する。

「基礎理学療法学」（10科目）

基礎運動学概論、基礎運動学各論、運動学実習、整形外科学、理学療法概論、基礎理学療法学、基礎運動療法学、リハビリテーション工学、動作解析学実習、臨床運動学

「理学療法評価学」（3科目）

理学療法評価学、理学療法評価学実習、理学療法評価学演習

「理学療法治療学」（17科目）

物理療法学、物理療法学実習、日常生活活動学、日常生活活動学実習、運動器疾患理学療法学、運動器疾患理学療法学実習、中枢神経疾患理学療法学、中枢神経疾患理学療法学実習、神経・筋疾患理学療法学、発達障害理学療法学、呼吸器疾患理学療法学、循環器疾患理学療法学、代謝系疾患理学療法学、スポーツ障害理学療法学、老年期理学療法学、健康増進理学療法学、義肢・装具学

「地域理学療法学」（2科目）

生活環境論、地域リハビリテーション論

「臨床実習」（5科目）

臨床見学実習、基礎実習、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）、臨床総合実習（総括）

「特論」（4科目）

理学療法技術学Ⅰ（中枢）、理学療法技術学Ⅱ（運動器）、理学療法技術学Ⅲ（痛み）、卒業研究

④専門分野（言語聴覚学専攻 57単位以上）

言語聴覚学専攻で行う専門分野では、「言語聴覚障害学」「失語・高次脳機能障害学」「言語発達障害学」「発声発語・嚥下障害学」「聴覚障害学」「臨床実習」「特論」の7分野に分け、それぞれ体系的に学べるように配置する。特に、「高度な知識に裏打ちされた医療従事者の育成」さらに、「摂食・嚥下障害や言語及び認知機能についての評価や治療が行え、十分な対応が可能な言語聴覚士の育成」を目的としていることから、実践的な評価や治療技術が必要な科目に関しては、実習を配置し、臨床現場で即座に対応できるように構成する。

「言語聴覚障害学」（4科目）

言語聴覚障害学総論、言語聴覚障害学診断学、言語学、音声学

「失語・高次脳機能障害学」（4科目）

言語医学、失語症学、高次脳機能障害学各論、高次脳機能障害学実習

「言語発達障害学」（5科目）

言語発達学、言語発達学概論、言語発達障害学各論Ⅰ（MR・自閉症）、言語発達障害学各論Ⅱ（CP・その他）、言語発達障害学実習

「発声発語・嚥下障害学」（10科目）

音声医学、形成外科学、臨床歯科医学、音声障害学、運動障害性構音障害学、器質・機能的構音障害学、吃音、呼吸リハビリテーション学、摂食・嚥下障害学各論、摂食・嚥下障害学実習

「聴覚障害学」（7科目）

聴覚医学、耳鼻咽喉科学、小児聴覚障害学、成人聴覚障害学、補聴器・人工内耳、聴力検査法、聴力検査実習

「臨床実習」

臨床見学実習、基礎実習、臨床評価実習、臨床総合実習

「特論」

言語聴覚学演習Ⅰ（基礎）、言語聴覚学演習Ⅱ（専門）、言語聴覚学演習Ⅲ（臨床）、卒業研究

以上の教育課程を体系的に編成する。

（注）・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）

及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

③ 教員組織の編成の考え方及び特色

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>1. 理学療法学専攻            理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を8名配置している。そのうち教授4名、准教授1名は博士の学位を有している。また、リハビリテーション領域における教育・研究業績が豊富な医師1名を配置する。専門分野の「基礎理学療法学」分野の専任教員2名、「理学療法評価学」分野の専任教員1名、「理学療法治療学」分野の専任教員5名、「地域理学療法学」分野の専任教員1名を配置した。これらの教員配置により、各領域の理解を深める充実した教育体制を整え、専門分野の理解を深められるように指導する。</p> <p>2. 言語聴覚学専攻            言語聴覚士の免許を有する教員を6名配置している。そのうち教授3名・准教授1名は博士の学位を有し、臨床及び教育・研究の実績がある教員である。その他に、言語聴覚士に関わる分野において、教育が可能な医師及び歯科医師も配置する。特に、言語聴覚士として中核をなす分野には実習科目が配置してあり、それぞれ専任教員が担当する。分野別の担当教員は、「失語・高次脳機能障害」分野の教員を2名、「摂食・嚥下障害学」分野の教員を2名、さらに「言語発達障害学」分野の教員は2名、「聴覚障害学」分野の教員を2名とし、各分野に専任教員を配置する。本学の建学の精神である高度な知識に裏打ちされた医療従事者の育成に十分な教員組織を構成する。</p>	<p>○理学療法学専攻の教員組織のうち、齋藤信夫准教授は理学療法士の免許と博士の学位を有している専任教員であるが、本人の事情により辞退した。よって教員組織の編成は、「理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を7名配置している。そのうち教授4名は博士の学位を有している。」に変更となる。後任については、現在調整中である。</p> <p>○言語聴覚学専攻の教員組織については、設置認可時より変更なし。</p>

(注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 新潟リハビリテーション大学  
 適宜項目を設けてください。（記入例参照）

④ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど																								
<p>(a) 成績評価と履修単位の上限定</p> <p>成績評価の厳格化のため、成績評価基準にGPA制度を用い、「+A (90点以上、GP4.0)」「A (80点以上90点未満、GP3.0)」「B (70点以上80点未満、GP2.0)」「C (60点以上70点未満、GP1.0)」「D (60点未満、GP0)」の5段階評価を行う。学部が定める算出式に基づいてGPAを算出し、学生の履修指導及び学業成績優秀者選考等に活用する。</p> <p>成績評価基準 (GPA制度)</p> <table border="1" data-bbox="159 481 606 649"> <thead> <tr> <th>点数</th> <th>評価</th> <th>判定</th> <th>GPA</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90点以上</td> <td>+A</td> <td>合格</td> <td>4点</td> </tr> <tr> <td>80点以上90点未満</td> <td>A</td> <td>合格</td> <td>3点</td> </tr> <tr> <td>70点以上80点未満</td> <td>B</td> <td>合格</td> <td>2点</td> </tr> <tr> <td>60点以上70点未満</td> <td>C</td> <td>合格</td> <td>1点</td> </tr> <tr> <td>60点未満</td> <td>D</td> <td>不合格</td> <td>0点</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA算出式 期別GPA</p> $\frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数}}$ <p>通算GPA</p> $\frac{[(\text{各学期に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{その科目の単位数}) \text{の合計} \text{の総和}]}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$ <p>GPAは各期末に作成される成績表に記載され、併せて記載される全学および学部、学年、専攻ごとのGPAの平均値と対比させることにより学生が自分の学習についての現状を数値により把握でき、次期からの履修計画や学習全体への取組について客観的分析をすることに役立てることを目的として用意する。</p> <p>また、学士課程教育の質の維持・向上を図るために、履修単位の上限定 (CAP制) を行う。上限は各専攻・各学年で設定し、所定の履修科目の単位を優れた成績をもって修得した学生については基準単位数を超えての履修登録を認める。期別GPA 1.5未満の学生については教務部門担当教員との面談を実施し、学習への取組について指導すると共に履修登録に制限をかけ、卒業要件を満たす単位取得を優先させるよう併せて指導する。2期連続で期別GPA 1.5未満の学生については成績向上に向けての具体策を生活面、学習面で改善していくため学生と教務部門担当教員と保護者 (保証人) との三者で面談を実施する。</p> <p>成績優秀者に対する措置として学習および実習に取り組むモチベーションとなるような特典を用意する。</p> <p>卒業時通算GPA 3.0以上の学生は新潟リハビリテーション大学大学院へ進学する場合に特待生 (学費の減免) として進学することができる。卒業時通算GPA 3.5以上の学生には成績優秀者として表彰等を行う。シラバスに具体的な授業内容・計画及び成績評価方法・履修単位の上限定について明示するとともに、入学時のオリエンテーションで詳細な説明を行い、上限を超えた履修がないように指導する。また、教員に対しては、FD研修でその実施法について研修し、教員間の成績評価基準の統一を図る。</p> <p>注1) 追試験及び再試験も本学規程に沿って行う。 注2) 複数の教員で担当された科目は、各科目責任者がその他の教員と配点及び評価を検討して、総合評価する。</p>	点数	評価	判定	GPA	90点以上	+A	合格	4点	80点以上90点未満	A	合格	3点	70点以上80点未満	B	合格	2点	60点以上70点未満	C	合格	1点	60点未満	D	不合格	0点	<p>○成績評価と履修単位の上限定については、「学生便覧、履修の手引き」に明示し、履行している。また、入学前のオリエンテーションならびに導入科目のフレッシュマンセミナー I においても詳細な説明を行った。</p>
点数	評価	判定	GPA																						
90点以上	+A	合格	4点																						
80点以上90点未満	A	合格	3点																						
70点以上80点未満	B	合格	2点																						
60点以上70点未満	C	合格	1点																						
60点未満	D	不合格	0点																						

<p>(b)履修指導方法</p> <p>(1)教務部による履修指導 理学療法学専攻および言語聴覚学専攻に履修指導担当(教務部)の教員を配置する。入学時のオリエンテーションにてシラバスを用いて専攻別に履修指導担当教員が説明を行い、履修計画を学生に立てさせる。提出された履修計画書の的確であり、学生が希望する卒業要件を満たしているのかを、教務部で検討した後、学生へと伝達される。さらに、前期から後期への移行時や進級の際に、学生が計画的に科目履修しているのかを再確認し、不十分な学生に対しては指導・助言を行う。</p> <p>(2)その他 学生の指導に関しては、履修指導の他に、ゼミ担当教員による履修及び学習指導や学生部による大学生活態度などの指導を行う。医療従事者や専門職業人としての認識を持たせ、大学での学習がより質の高いものになるように援助をする。さらに就職活動指導や健康管理面としてカウンセラーによる学生相談の整備なども行い、有意義に学生生活を送れるように配慮する。</p> <p>(c)卒業要件</p> <p>理学療法学専攻：必要最低卒業要件単位数 126単位    教養分野 必修科目6単位 選択科目42単位    専門基礎分野 必修科目25単位 選択科目29単位    専門分野 必修科目63単位 選択科目8単位</p> <p>言語聴覚学専攻：必要最低卒業要件単位数 126単位    教養分野 必修科目6単位 選択科目42単位    専門基礎分野 必修科目25単位 選択科目29単位    専門分野 必修科目53単位 選択科目8単位</p>	<p>○履修指導は教務委員会のもと入学時に「学生便覧、履修の手引き」に沿ってオリエンテーションを実施した。その後学生に履修計画を立てさせ、提出された履修計画書を教務委員会が確認し、不十分な学生に対しては再指導を行った。</p> <p>○履修指導以外に関しては、学生委員会より入学時のオリエンテーションにて大学生活における基礎知識や医療従事者としての認識を持たせるよう「学生便覧、履修の手引き」に沿って指導を行った。また学生支援課を設置し、大学での学習がより質の高いものになるように援助している。</p> <p>○その他、大学生活の中での健康管理等について気軽に相談できる学生相談室を設置し、専門家によるカウンセリングを受けられるよう整備した。</p> <p>○理学療法学専攻、言語聴覚学専攻ともに、教養分野の「統計学(2単位)」「保健体育(1単位)」は、文部科学省医学教育課の指導(平成21年11月)により選択科目から必修科目に変更した。    教養分野 必修科目9単位 選択科目39単位に変更。</p> <p>○卒業要件は学則に明示している。また教務委員会のもと入学時に「学生便覧、履修の手引き」に沿ってオリエンテーションを実施し指導した。</p>
---	---

及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

⑤ 施設、設備等の整備計画

認可時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
<p><b>校地、運動場の整備計画</b>            校地、運動場については平成22年度から平成24年度までは新潟リハビリテーション専門学校と共用とする。(11,026.28㎡)            運動場(グラウンド)は校地より5kmの位置にある土地を村上市より借り受け(約5,000㎡)、グラウンド用地として整備し、主として学生の課外活動の際に利用する。さらに校地内に体育館(341.00㎡)の新築も予定している。グラウンド、体育館の主な用途としては、学生のサークル活動、福利厚生での使用を予定している。            E棟2階の屋上は、C棟1階の学生食堂(273.26㎡)と共に学生の交流の場、憩いの場として開放する事を予定している。</p> <p><b>図書等の資料及び図書館の整備計画</b></p> <p>①図書資料の整備            現在、新潟リハビリテーション専門学校(以下、専門学校とする)の図書室は拡充され(470.17㎡)、最大80,000冊を収容できるスペースを確保しており、これを共用とする。本学は専門医療分野の蔵書を中心として、専門学校の蔵書16,618冊(うち外国書900冊)及び新潟リハビリテーション大学院大学(以下、大学院とする)の蔵書2,750冊(うち外国書307冊)をあわせ蔵書数19,368冊をすでに備えている。これに加え開学前年度には、電子ジャーナルを中心に整備をし、心理、哲学、国文学、英米文学などを含む教養基礎分野の蔵書も購入することにより、開学時には少なくとも約21,000冊の蔵書を整備する。学術雑誌は専門学校購読雑誌20種(うち外国誌1誌)と大学院購読雑誌30誌(うち外国誌16誌)の計50誌(17誌)を整備する。視聴覚資料については、専門学校所蔵分545点及び大学院所蔵分51点、計596点を整備する。なお、専門学校所蔵分の図書等については、完成年度まで随時移管する。</p> <p>②電子ジャーナル・電子データベースの整備            現在文献検索データベースとして国立情報学研究所の「CiNii(サイニー)」を整備し、開設時までには、医学文献情報データベースとして「メディカルオンライン」「医学中央雑誌Web版」「Medical Finder」を整備しインターネット上で検索できるサービスを提供する。電子ジャーナルは、現在、Age &amp; AGING-PRINT+ONLINE、DYSPHAGIA-PRINT &amp; ONLINE、NEUROPSYCHOLOGICAL REHABILITATION-PRINT &amp; ONLINE、Archives of Clinical Neuropsychology-PRINT &amp; ONLINEの4誌を導入しているが、開設時までには理学療法分野でJournal of Bodywork and Movement Therapies、Physical Therapy in Sport、Physiotherapy等19誌を導入し、言語聴覚分野ではJournal of Voice、Otolaryngology - Head and Neck Surgery、Brain and Language等13誌導入を予定している。開設後は利用頻度を勘案しながら、また学生の希望に応じて具体的な整備計画を策定しより一層の充実を図る。(資料17参照:開設次追加分 新規電子ジャーナル一覧)</p> <p>③他大学との協力            新潟県大学図書館協議会及び新潟県図書館等情報ネットワークに加盟する。学部設置の際は、図書館にて他大学の蔵書を検索できるようにする。</p> <p>④図書館の整備            図書館は、閲覧席数90席及び視聴覚ブース7席など計97席を備える。開設時には開架式書架を整備し、約3万6千冊の収蔵が可能なよう整備する。完成年度までに開架式書架、閉架式書架を増設し、更に収容可能冊数を増やすよう整備する。また、教員の教育研究活動を支援し、学生の勉学を手助けするため、調査・研究活動の援助、相談を図書館専門職員により随時行う。学生及び教職員が図書資料を複写できるよう、閲覧室内に複写機を配置する。</p> <p style="text-align: center;">新潟リハビリテーション大学</p>	<p>○体育館            341㎡→338.27㎡に変更            建築計画と登記上面積の誤差による変更。</p> <p>○開学時の蔵書の整備について、設置計画段階では21,000冊を予定していたが、学生の学習や知的好奇心の増進に資する為、1670冊増やし22,670冊の蔵書の整備を行った。</p> <p>○「Medical Finder」に関して、計画では22年4月中に整備予定であったが5月1日現在未整備である。これは本学で未取得であったIPアドレスが本電子ジャーナルには必要不可欠であり、取得のため業者と日程調整を進め、本年6月中には整備できる予定である。</p> <p>○共生型大学連携事業に加盟し新潟県内の大学の学生が各大学図書館の特色のある蔵書を簡単に利用できるようになった。この事により県内教育研究資源の有効活用を図り、各大学の教育・研究の活性化と学習支援サービスの向上を目指している。</p> <p>○初年度につき変更事項は特になし。            認可時の計画通り履行すべく鋭意努力している。</p>

(注)・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

⑥ 入学者選抜の概要

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>(a) 入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) リハビリテーション分野において地域社会や国際社会に貢献するためには、人間愛や道徳心を持ち、広い視野に立って専門性の高い知識や技術を身に付けることが求められる。このため、高校時代において大学の授業の土台となる教科として、特に、国語、理科、英語をしっかりと勉強しておくことが、きわめて重要である。これらの教科の基礎知識を幅広く確実に修得しておくことは、大学の授業をスムーズに理解するのに役立つ。</p> <p>(b) 入学資格 ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者 ② 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した学校教育施設の当該課程を修了した者 ④ 文部科学大臣の指定した者 (昭和23年5月31日文部省告示第47号) ⑤ 高等学校卒業程度認定試験規則 (平成17年文部科学省令第1号) による高等学校卒業程度認定試験に合格した者 (同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定試験 (昭和26年文部省令第13号) による大学入学資格検定に合格した者も含む。)</p> <p>(c) 募集人員と選考方法 ① 理学療法学専攻 (40名) 一般入学試験 A日程 17名 B日程 3名 「調査書」「学力試験」「面接」による総合判定 特別入学試験 公募推薦 18名 社会人選抜 2名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 ② 言語聴覚学専攻 (40名) 一般入学試験 A日程 17名 B日程 3名 「調査書」「学力試験」「面接」による総合判定 特別入学試験 公募推薦 18名 社会人選抜 2名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定</p> <p>(c) 入学者選抜方法 入学者の選抜は、入学資格を満たす資質を持つ学生を多角的に選抜するために、個別学力検査、面接、小論文及び調査書の内容を総合して本学が行う。 なお、入学者選抜の実施に当たっては、入学者選抜委員会を設置し、大学設置基準第2条の2及び大学入学選抜実施要項の規定に従い、その準備から実施、合否判定に至るまで、公正かつ妥当な方法により行うものとする。 (1) 一般入学試験 個別学力検査、面接及び調査書の内容を総合的に判断して行う。2期に分け、2月および3月に選抜を行い、学力試験の科目は、国語を必修とし、さらに物理、生物、化学から1科目選択としている。 (2) 公募推薦特別入学試験 以下の要件を満たし、出身学校長が責任をもって推薦した者は、個別学力検査を免除して、面接、小論文及び調査書の内容を総合的に判断して12月に選抜を行う。 ① 心身ともに健康で、学習態度・生活態度が良好な者 ② 本学を専願する者 (3) 社会人選抜特別入学試験 個別学力検査を免除して、面接、小論文及び調査書の内容を総合的に判断して12月に選抜を行う。 なお、社会人の定義としては、大学の入学資格を有する者で、入学年度の4月1日において満22歳以上に達する者とする。</p>	<p>○ 本学の入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) を遵守すべく入学試験を実施した。入学試験には設置計画に従い、面接に加え、小論文 (推薦・社会人) および科目試験 (必修: 国語、選択: 物理・化学・生物) を課した。英語を積極的に取り入れるという意味で、入学後にプレイスメントテストを受けさせ、クラス分けによる英語の講義を行っている (英語 I II III・オーラルコミュニケーション I II III)。</p>

(注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの (未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)



## (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

### ① 実施体制

#### a 委員会の設置状況

平成19年度に先に開学していた大学院のFD委員会を、学部増設に伴い、院と学部の合同の委員会に改編した。学部長を委員長とし、教員7名、事務職員1名の合計8名で構成している。FD委員会は教員の教育指導能力の向上、研究能力の向上を図ることを目的とし、学内におけるFD活動が持続的に実行されるよう運営を行う。FD委員会の規程を下記に転載する。

#### 新潟リハビリテーション大学 ファカルティ・デベロップメント委員会規程

- (目的) 第一条 この規程は新潟リハビリテーション大学学則第2条(3)及び大学院学則第2条(3)に基づき設置されるファカルティ・デベロップメント委員会(以下「委員会」という)の構成、役割、運営等について定める。
- (構成) 第二条 委員会は次に掲げる委員をもって構成する。  
1. 学長が委嘱する委員若干名。  
2. 委員の任期は2年とする。
- (役割) 第三条 委員会はファカルティ・デベロップメント活動(以下FD活動という)が持続的に実行されるよう、次の事項について審議するとともに、各年度におけるFD活動の推進機能を併せもつものとする。  
1. FD活動の企画立案。  
2. FD活動の実施計画の立案。  
3. FD活動の評価。  
4. FD活動に関する情報の収集と提供。  
5. その他、学長の諮問する事項。
- (会議) 第四条 委員会は必要に応じて会議を開くものとする。  
1. 委員会は委員長が召集し、その議長となる。  
2. 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。  
3. 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。  
4. 委員会は、委員の過半数を持って成立し、審議事項の決議には出席委員の過半数の賛成を必要とする。
- (規程の改廃) 第五条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学の定める手続きによる。
- 付則 1. この規程は、平成19年4月1日から施行する。  
2. この規程は、施行後2年以内に見直しを行うものとする。  
3. この規程は、平成22年4月1日から施行する。

#### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

FD委員会：平成22年度第1回→平成22年4月12日（FD委員6名参加 2名欠席）  
第2回→平成22年5月10日（FD委員7名参加 1名欠席）

#### 新潟リハビリテーション大学

##### 第1回FD委員会（平成22年4月12日）

1. FD委員会の位置づけ確認
2. 年度計画について
3. 新任教員研修会について
4. 第2回FD委員会について

##### 第2回FD委員会（平成22年5月10日）

1. 年度計画について
2. 第1回FD研修会について
3. 講義アンケート内容について
4. 公開講義について
5. 第3回FD委員会について

## ② 実施状況

### a 実施内容

- ・年間計画の立案、作成（下記に平成22年度の年間計画を示す。）
- ・新任教員のための研修会
- ・専任教員のためのFD研修会
- ・講義評価アンケートの実施
- ・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成
- ・公開講義

#### 平成22年度 FD活動年間計画

- 4月 新任教員研修
- 5月 FD委員会
- 6月 FD研修会
- 7月 FD委員会、学生による講義アンケート実施
- 9月 FD研修会
- 10月 公開講義開催
- 12月 FD研修会
- 2月 学生による講義アンケート実施
- 3月 公開講義開催

### b 実施方法

- ・新任教員のための研修会について  
年度当初にFD委員会主催による新任教員のための研修会を実施する。FDの目的や位置づけについて理解を深めるとともに、FD活動の取り組みについて周知させることを目的とする。
- ・専任教員のためのFD研修会について  
専任教員を対象に、年3回程度のFD研修会を実施する。テーマはFD委員会が決定する。
- ・講義評価アンケートの実施方法について  
全ての講義の最終コマにおいて、受講した学生に担当教員がアンケート用紙を配布し、無記名で回答してもらう。アンケート内容は14項目＋自由記載とする。  
アンケート用紙はFD委員が回収し、集計およびとりまとめを行う。
- ・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成方法  
講義評価アンケートの集計結果を各教員へ渡す。各教員はその結果を建設的に役立てていくべく、次年度に向けた改善意向、意見、抱負等を記載した意見書をFD委員会へ提出する。FD委員会は個々の講義評価とそれに対する教員対応とをとりまとめ、全体の報告書を作成し、学長に報告する。学長は報告内容について、総合的判断を行う。
- ・公開講義について  
講義評価アンケートの集計結果から高得点を得た教員の講義を公開する。公開講義を行うことで、「良い講義」や「講義技術」を教員等が学びとり、教育のスキルアップを図る。

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・新任教員のための研修会  
平成22年4月19日に実施。（1名のみ欠席）  
内容：①FDとは何か。 ②なぜFDが必要なのか。 ③大学FD活動の具体的な取り組みについて
- ・専任教員のためのFD研修会  
第1回：平成22年6月14日開催予定  
テーマ「これからの大学教育の質保証のあり方—大学と評価機関の役割」  
第2回：平成22年9月に実施予定（日時未定）  
テーマ「よい講義をするためのポイント」  
第3回：平成22年12月に実施予定  
テーマ「未定」
- ・講義評価アンケートの実施について  
各講義の最終コマに担当教員が学生に配布し、FD委員会にて回収と集計を行う予定。
- ・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成  
FD委員会が作成中
- ・公開講義  
10月ならびに3月に実施する予定。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・講義評価の集計結果は各教員のフィードバック、改善計画等を提出し、検討していくことを予定している。

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開学後（1ヶ月）間もないため、自己点検・評価は未実施であるが、点検・評価に向けて、自己点検・評価委員会、FD委員会、大学運営委員会等を学内に組織した。今後は自己点検・評価委員会を中心に具体的な検討を定期的に行っていく、設置の趣旨・目的を達成できるように努力していきたい。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

自己点検・評価報告書の前段階として、平成22年度の活動を記した年報を平成23年度中に公表する予定。

##### b 公表方法

- ・作成した年報を教職員及び希望のあった学生、他、共同研究実施企業や関連団体、個人に希望冊数を配付予定。
- ・新潟大学学術リポジトリ内の組織である「新潟県地域共同リポジトリ」で公開する予定である。

#### ③ 認証評価を受ける計画

現在大学院で「財団法人大学基準協会」で評価を受ける予定としており、学部も同、協会にて評価を受ける予定としている。

(注) ・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) ( 平成22年 7月 1日 )
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (  承諾する ・  承諾しない )
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス  
(<http://nur.ac.jp/index.php?id=20> )

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。  
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : [d-secchi@mext.go.jp](mailto:d-secchi@mext.go.jp)  
件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。